



SDGs

17のゴールと協同の関わり

SDGs…Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)



©よい食P



AKITA SDGs

JA秋田なまはげは
秋田県SDGsパートナーです

貧困や紛争、疫病や気候変動など…世界中で向き合わなければいけない問題が、今、山積みになっています。誰ひとり取り残されない持続可能でよりよい社会を、2030年までに目指す国際目標“SDGs”。SDGsで示された17の目標それぞれと農業や組織活動、JAとの関わりを、実際に行われている取り組みとともに紹介します（4号連載／第4回）。SDGsを意識した毎日の行動によって、わたしたち自身や未来を担う子どもたち、地球上の人々の笑顔につなげましょう。

13 気候変動に具体的な対策を



気候変動に具体的な対策を

猛暑や寒波、強い台風や洪水などといった厳しい気象経過や災害の頻度が増加しており、農業に大きな影響を及ぼしています。変化していく気候のなかでも安定して農業を行うためには、圃場の特性をふまえて作付け計画を見直し、厳しい気候に強い品種を選んだり、土壤改良材を使ったりするなど、今これからを見据えた対策が必要になります。ハウスや園地、施設などの補強も大切です。JAも関係機関と連携しながら実証実験や研修会などを通した情報提供、災害対策資金の取扱いなどをしており、お気軽にご相談ください。

極端な気象経過や災害が頻発しています



14 海の豊かさを守ろう



海の豊かさを守ろう

プラスチックごみによる海洋汚染が深刻化し、あらゆる分野で対策されはじめています。農作業で使い不要になったプラスチックは、JAが定期的に行う廃棄プラスチックの一斉回収などによって適切に処分してください。一発肥料などの被覆肥料の被膜殻もプラスチックでできており、浅水での代掻きや水尻にネットなどを設置することで、プラスチック殻の流出を抑えることができます。また、海は貴重な観光資源のひとつです。日本海に面したJA秋田なまはげ管内には沿岸部の圃場が多くあり、海に近い農地や街の景観を美しくし続けることが、観光価値の維持につながります。



海と農地が美しい景観をつくります